

新成人 未来へ飛躍誓う



▲ 晴れ着姿の新成人でにぎわう会場

新成人の門出を祝う「成人式」が1月13日、市文化センター大ホールで開催されました。あでやかな振り袖や羽織袴、スーツに身を包んだ新成人467人(対象者629人)が出席。旧友たちと共に、人生の新たなスタートを切りました。

式典は、八幡市内で活動する和太鼓サークル「どんと鼓」の力強い演奏で幕開け。続いて、堀口市長と細見市議会議長が、新成人に向けてお祝いの言葉を贈りました。

最後に新成人を代表して、坂本龍太郎さんと金光里紗さんが誓いの言葉を述べました。



誓いの言葉を述べる坂本龍太郎さん(左)と金光里紗さん(右)

た。東京オリンピックの開催決定に触れ「私たちは、それぞれ異なる可能性を持っています。近い将来、それぞれが目指す分野でその可能性を十分に発揮できるように常に努力を惜しまず、どんな困難にも立ち向かっていきます」と固く決意していました。

八幡市子ども会議

子どもの発想でより良いまちづくりを考える「八幡市子ども会議」の委員が1月11日、取りまとめた考えを松花堂美術館で堀口市長に提言しました。

同会議は、立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携して毎年行われており、今回で10回目を迎えました。

同委員である市内の小中高生32人が4班に分かれ、昨年の7月から市長に提言するテーマを決め、取材や調査を続けてきました。

「食生活をテーマにした中学生班は、若者の食生活の乱れに

子どもの発想 市長に提言

注目し、「子ども松花堂弁当」コンクールを提案。コンクール形式で各中学校の生徒が松花堂弁当を作ることで、食への関心が高まり、食生活が改善できると提言しました。

ほかにも、ごみの削減や観光とエコなど、さまざまな視点からのまちづくりのアイデアが発表されました。

「子ども松花堂弁当」コンクールを提言した中尾溪悟さん(14)は「一緒にやってきた仲間と発表できて楽しかったです。全国の見本となる会議になってほしいです」と、同



「子ども松花堂弁当」コンクールを提言する中学生班

会議の発展に期待を寄せていました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

児童らが新春のおもてなし

新春お茶会 & 和太鼓とメロディ



参加者をもてなす児童たち

地域での交流を深めようと「新春お茶会&和太鼓とメロディ」が1月7日、美濃山コミュニティセンターで行われ、訪れた親子連れなどが一緒に新春を祝いました。

第1部では、山鳩第二保育園の園児たちが「おもちゃのマーチ」などの歌や和太鼓演奏を披露。そのかわいらしい姿に、観客たちからは笑顔があふれていました。

第2部では、お茶会が行われ、同センターで活動す

る茶道サークル「美楽会」と「子ども茶道教室」の児童7人が、参加者26人を2席に分けておもてなし。参加者たちは、児童たちがもてなしてくれたお抹茶とお茶菓子を味わいながら、新春の訪れを感じていました。

お点前を披露した辻村日和さん(12)と安友貴啓くん(11)は「とても緊張したけど、なんとかできました。これからもお茶は続けていきたいです」と、しっかりとした口調で話していました。

松花堂新春書初め席書大会

心をこめて筆を運ぶ

「寛永の三筆」の一人である松花堂昭乗ゆかりの松花堂で1月19日、「第17回松花堂新春書初め席書大会」が開催されました。同大会は書道に親しんでもらおうと、市と松花堂庭園・美術館が共催しており、3歳から高校1年生までの132人が参加しました。

講師を務める八幡市文化協会書道部会の会員が「しずかに、心をこめて、ていねい」を合言葉に掲げ、同大会が開会しました。

幼稚園児は「うま」、中学2年生は「平和を願う」など、学年ごとに決められた課題に参加者たちは挑戦。初めて筆を持つ小さな子どももたくさんいましたが、同会員から「筆をしっかり立てて」などのアドバイスを受けながら、心をこめて、ていねいに筆を運んでいました。

最後は、出来上がった作品をみんなで高く掲げ、保護者や同会員たちに披露。参加者たちの力作が、ずらりと並んでいました。



筆を運ぶ参加者たち